

**独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第14回
議事要旨**

1. 日時 平成16年1月23日(金) 14:00~16:00
2. 場所 国立国語研究所会議室
3. 出席者 甲斐委員長, 中西副委員長, 水谷副委員長, 相澤委員, 阿辻委員, 倉島委員, 古賀委員, 輿水委員, 小森委員, 柴田委員, 関根委員, 田中委員, 鳥飼委員, 福田委員, 山崎委員

4. 会議の概要

(1) 第3回中間発表について

第3回言い換え提案で取り上げる語の選定について検討を行った。
提案の形式について検討を行った。

(2) 第4回基本方針について

医療福祉など暮らしにかかわりが深そうな外来語を分野別に取り上げることについて意見交換を行った。

(3) その他

第3回, 第4回の「外来語」言い換え提案の作業日程について

- ・第3回中間発表を4月下旬, 最終発表を7月中旬に行う予定とする。
- ・第4回中間発表を11月, 最終発表を平成17年3月に行う予定とする。

5. 会議での主な意見

将来, 外来語として定着するものでも, 定着するまでは内容を分かってもらう必要があるので, 説明付与だけの例もあってよい。

提案方法で, 言い換え語を示さずに説明付与だけのものなどいろいろと工夫するのはよいが, 瞬間的な理解が難しくなったり, 整合性がとれなくなるおそれもある。

言い換え語として使うか, 説明付与として使うかは, 言い換え例を使う側の判断に任せればよいから, 説明付与のみという分類は必要ない。

受信者の立場に立って言い換え提案をする必要があり, 単純に言い換えられないものは, 言い換え提案の発表からは外すべきではないか。必要があれば付録としてその外来語の内容を説明すればよいのではないか。

提案方法として, 言い換えと説明付与の二通りあるが, それぞれの語をどちらに分類するかの明確な理由を示すことは難しいので, 提案方法を統一した方がよい。

「等生化」と「等しく生きる社会の実現」のように言い換え語と, 説明付与の両方が出る方がよいのではないか。また, 句として出したものが短い語に変わったり, 短く使用されることはよくあるので, 文脈によってどちらでも使えるようにした方がよい。

固有の組織などの名称に使われている語には, 普通名詞としても使用されるものもあるので, 組織名などでない用法に関してどうするかは, 議論する必要がある。

「今後定着が進むと予想されるもの」と「現段階でかなり定着が進んでいるもの」とは程度は違うものの, 両方ともこの先, 定着が進むことが予想されるものであり, 2つに分ける必要はない。

新聞で発表内容を伝える場合には簡単な形になってしまい, 議論の過程が見えにくくなる

おそれがある。

「概念が多岐にわたり過ぎる」「適切な言い換えの言葉がない」など、言い換えになじまない言葉もある。そういうものは更に検討を続け、現段階では発表しなくともよい。

提案の内容がだんだん深くなる一方、マスコミの関心がだんだん薄れる状況にあるので、第3回の中間発表には工夫が必要である。

第4回の提案を終了した後、総集編のようなものを作ってはどうか。4回目の提案の対象語は、総集編も意識しながら、医療福祉など暮らしにかかわりの深いものを中心に選んではどうか。

以上